

カヌー競技を広めるために
— 我った～常笑軍団 —

沖縄県立沖縄水産高等学校
平 良 祐 喜

1 はじめに

現在、沖縄県のカヌー界のおかれている状況は年々県民の認知度が高まり、競技者数も増え、徐々にではあるが普及・発展し始めている。とは言っても部活動として活動している学校は沖縄水産高等学校と小禄高等学校の2校しかなく、2校合わせてのカヌー競技の競技人口は40人程度と未だ少ない。また、小学校、中学校、大学での活動実績がない問題もある。しかし、今後は2020年の東京オリンピック開催をチャンスととらえ、この契機にさらなる発展・普及に繋げなければならないと考えている。

2 沖縄県のカヌー競技の実績

沖縄県のカヌーはここ数年、全国的にみても強豪校として注目されているが、中でもカナディアン種目においては過去ソウル、バルセロナ五輪に本県選手（當山克也）が代表選手として参加した実績があり、現在においてもシニア日本代表選手として（當銘孝仁、大城海輝）がこれまで全日本学生選手権大会、日本選手権大会、国民体育大会等の各大会で優勝し、来る11月にインドネシアパレンパンで開催される2015アジアカヌースプリント選手権大会（リオデジャネイロオリンピックカヌースプリントアジア大陸最終予選会）にオリンピック出場枠を掛け戦うほど日本国内での実力者がいる。

3 カヌー競技について

国際カヌー連盟が統括するカヌー競技は以下の通り。



①カヌースプリント
(オリンピック種目)



②カヌースラローム
(オリンピック種目)



③カヌーワイルド
ウォーター



④カヌーポロ



⑤ドラゴンカヌー



⑥フリースタイル



⑦その他の競技種目

カヌーマラソン、ラフティング、シーカヤック

沖縄県で活動しているカヌー競技は①のカヌースプリントです。カヌースプリントにはシートに完全に座って両サイド漕ぐカヤック部門と片膝を立て片側を漕ぐカナディアン部門の2種目あります。



カヤックシングル



カナディアンシングル

また、それぞれペア種目とフォア種目がある。



カヤックペア



カナディアンペア



カヤックフォア



カナディアンフォア

4 活動実績

(1) 活動の内容

時間・曜日	月	火	水	木	金	土・日・祝祭日
6:00 ～ 7:40	練習	練習	練習	練習	練習	練習 6:00 ～ 7:40 10:00 ～ 12:30
16:30 ～ 19:00	練習	練習	OFF	練習	練習	OFF

(2) 平成 22 年～平成 27 年全国高校総体の実績

年 度	学 校 名	氏 名	種 目
平成 22 年	沖縄水産高校	當銘 孝仁	カナディアンシングル 500M 優勝 カナディアンシングル 200M3 位
		大城 海輝	カナディアンシングル 500M3 位 カナディアンシングル 200M4 位
		當銘 孝仁 大城 海輝	カナディアンペア 500M2 位 カナディアンペア 200M2 位
平成 23 年	沖縄水産高校	大城 海輝	カナディアンシングル 500M 優勝 カナディアンシングル 200M 優勝
平成 24 年	沖縄水産高校	仲宗根脩真 大城 就一	カナディアンペア 500M 優勝 カナディアンペア 200M 優勝
		大仲 雅人	カナディアンシングル 500M4 位 カナディアンシングル 200M6 位
		仲宗根脩真 大城 就一 大仲 雅人 末吉 集人	カナディアンフォア 500M2 位 カナディアンフォア 200M3 位
平成 25 年	沖縄水産高校	仲宗根脩真 大城 就一	カナディアンペア 500M 優勝 カナディアンペア 200M 優勝
		大仲 雅人	カナディアンシングル 200M5 位
		仲宗根脩真 大城 就一 大仲 雅人 末吉 集人	カナディアンフォア 500M5 位 カナディアンフォア 200M 優勝
		比嘉 宣友	カヤックシングル 500M7 位
平成 26 年	沖縄水産高校	川田 雄野 多和田竜之介	カナディアンペア 500M8 位 カナディアンペア 200M5 位
平成 27 年	沖縄水産高校	山城 勇也 神里 大稀	カナディアンペア 200M7 位
	小緑高校	上原 流和 宮城ひとみ	女子カヤックペア 200M7 位

5 私がなぜ指導者になれたのか？高校が分岐点！！

私は中学校ではとにかくバカがつくほど野球に明け暮れました。そのため当時、全国でも野球の強豪校であった沖縄水産高校に迷いなく入学しました。もちろん甲子園をめざし、必死に練習に励みました。しかし、入部して数ヶ月を過ぎた頃、体に異変を感じ始めました。肩や腰に激痛が走り、走る、ボールを投げるといふ事すら出来ない状態になりました。毎日、病院通いするなどして練習に参加する回数が日に日に減っていき、周りの選手が上達していく姿を見て、不安や焦りを感じるようになりました。負けたくないという気持ちが先走り、完治していない状態で練習しては、また悪化して練習ができなくなる。そういったことを繰り返していました。次第にこのままではレギュラーどころか野球すらまともにできない。そう思うようになり徐々に野球に対しての意欲を失い、遊ぶことで気を紛らわすようになりました。最終的にはこれまで野球しか頭になく野球が生きがいであった私が野球をやめることになりました。当時、野球を辞めるイコール学校も辞める、という流れが普通で、この時点でそうやって学校を去っていった生徒もす

で何名かいました。気がつけば自分もその中の一人で、学校に居場所がなく不登校になっていました。つい数ヶ月前、両親に「絶対に甲子園に連れて行ってやる！」と夢や目標を語って、これまで特に親に反抗などしたことなかった私が、その頃、問題行動を繰り返し多くの方に迷惑を掛けました。そんなある日、分岐点が訪れます。偶然にも担任の先生がカヌー部顧問で、「一緒にカヌーをやろう！」と声をかけてもらうことがきっかけでカヌーをやることになりました。次第にのめりこみ部活でも勉強でも遅れを取り戻すために必死に無我夢中でやった結果、大学進学のための最低限の成績を残す事が出来、当時カヌー強豪校である大学に進学することが出来ました。卒業後、講師として母校の沖縄水産高校に戻ることができ平成 22 年に採用され本格的にカヌー部の監督としての指導者になりました。

6 部活動って何？

どの競技であれ、やるからには 1 番になる。誰もがそう夢を描くと思います。指導者なら 1 番になる事のむずかしさは十分に知っています。どの競技であれ、真剣にやっていく中、同じゴールを目指し肉体の苦痛を共有して、初めてこれまでになかった連帯感が生まれてきます。中高生の時期にそういうことがきっかけで人間って強くなり、社会に出て、弾かれない、脱落しないための頑張る癖が身に付き、努力を継続できる力を育んでいける。それは後に心の財産となり、競技力向上に繋がると私は確信しています。

「一人で見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実となる夢」と常に選手に言い聞かせ、他にはない常笑軍団を作りたい。監督と選手、そういった壁はもちろんありますが、大きくはみ出さない限り結構自由にさせています。指導者冥利に尽きることは選手のおかげで全国制覇などの夢も語る事ができ、もちろん良いことばかりではなく、時には泣きたいくらい悔しい思いもする。指導者にとっての生きがいを作ってもらっている。人生を豊かにさせてもらっている。選手たちのおかげです。毎年、いろんな生徒が入学してくる中、多くの出会いがあります。すべて奇跡です。たくさんの競技がある中、最終的に自分が関わっている競技を選択してくれた選手一人ひとりに感謝の気持ちを忘れてはいけません。選手も監督もいつもユーモアとスマイルを忘れない環境作りを心がけ、きつい時苦しい時、にも関わらず共に笑う事ができる集団を作る。そして私が指導者として部活動の究極の目標と掲げているのは決して全国制覇ではなく、社会人として親孝行できる人作り。そんな道しるべに私はなりたい。

7 私の指導上の留意事項

- (1) ① 威圧感を出さず、毎日の練習で選手を温かく見守り観察する。
- ② 地域行事に参加（地域の清掃活動や行事に積極的参加）
- ③ 学業（成績よりも生活面での模範生なれ！）
- ④ にもかかわらず精神を磨く（苦しい時・・・にも踏ん張る事）

(2) 今後の課題

- ① 練習環境（沖水艇庫の老朽化、艇や道具の確保）
- ② 指導者・後継者の育成
- ③ 小・中学生からの選手育成のための組織作り

8 まとめ

沖縄は古くからハーリー文化があり「船を漕ぐ」ということに対して親しみがある。これまでの選手の活躍から徐々にではあるが県内でのカヌー競技が発展・普及し始めている状況があります。現在、高校で活躍した本県選手が大学や社会人としても日本代表で活躍し、リオ五輪や東京五輪出場を目指し、世界を舞台に戦っているが、その姿に未来を担う沖縄の子供たちが感銘を受け、カヌー競技が沖縄のお家芸となるよう強化に貢献できればと考えています。そう考える事が出来るのも全部選手たちのおかげです。